

DP（教育目標）

- DP 1 社会で求められる倫理観と研究能力を修得し、誰もが心身ともに豊かに生活できる福祉社会の創造と実現に貢献することができる。
- DP 2 研究と実践の双方において社会に貢献できる能力を修得し、福祉社会の課題に学際的に取り組むことができる。
- DP 3 社会福祉の理論と政策、ソーシャルワーク、福祉経営などの実践的専門分野を徹底して学び、各々の分野でリーダーとして、対人援助及び社会活動を展開することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	SDGs該当項目
基礎論	福祉社会基礎論A(福祉社会原論)	2	必修	21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。	◎	◎	◎	1,2,3,5,10,11,16
	福祉社会基礎論B(福祉社会研究法)	2	必修	グローバル化の時代では、どんなテーマを持つにしろ国際比較の視点を備えて通文化的に、しかも流動的思考で縦断的に研究していくことが重要になってくる。自分のテーマの分野に積極的な取り組みをみせる一つあるいは複数国の当該分野を研究することをすすめている。サービスやシステムを作り出す土壌として価値や文化、現在に至る歴史等をしっかり踏まえ、実体のある研究とする必要がある。以上に立脚した各自の発表が授業の中核をなす。	◎	◎	◎	1,2,3,5,10,11,16
	福祉社会基礎論C（社会調査論）	2	必修	この授業では、社会調査に関する基礎的な流れ、テーマによる適切な調査方法の選び方などを講義により理解したうえで、主として調査票調査によるデータについて収集の段階から演習形式で方法論を学び、簡易なソフトウェアを用いて、初歩的な統計的手法をもちいながら分析する実践的な手法を学ぶ。	○	◎		3
	福祉社会基礎論D（文献購読法）	2	選択	指定する文献について肯定、否定の両面から検討し、発展的な論題についての討論を行う。さらに関連する情報を調べ自己の見解を事前にまとめ、意見交換や疑問に答える。これらを通し自らの見解を深め、説得力のある主張の方法を身に付ける。履修者は授業回ごとに指定する文献の該当範囲をよく読んで授業に参加することが求められる。	○	◎		3
特論	社会福祉史特論	2	選択	日本、イギリス、中国、台湾、韓国の社会福祉の展開過程に関する講義を実施するとともに、歴史的研究方法についても紹介する。適宜映像資料も使用し、理解を深める。	○		◎	1,2,3,10,16
	障がい児支援特論	2	選択	保育所や就学前障害児通所施設における障害を持つ幼児の保育について、インクルーシブな理論と方法を習得することをねらいとする。障がい児保育にあたっては、特に個別の発達や生活状況に対応できる専門性が要求されるために、障がいを持つ子どもの発達特徴や理解の方法について学び、援助技術を習得する。さらに親へ相談、支援の方法を修得し、他の福祉機関や施設・医療保健・教育等の地域専門機関との連携についても理解を深める。	○		◎	3
	家族社会学特論	2	選択	家族社会学のテキストを事前に読み、担当を決めてプレゼンテーションおよびディスカッションをするゼミナール形式で授業を行う。また、時事的な家族問題をとりあげ、問題への対処のしかたにどのような方法がありえるのかを共に考える。受講者の関心にそって、教科書の内容または、特定の家族問題をとりあげる割合は調整をするため、計画に適宜変更を加えることがある。	○		◎	1,3,5,8
	精神保健福祉と権利擁護特論	2	選択	国際障害者年を境に障害者福祉が大きく転換し、続々と新しい理念が登場しパラダイムの転換がはかられたことを理解する。そこから日本における精神保健福祉がどのような歴史的な経緯で現在に至っているのかを再考し、現在も続く長期入院や社会的入院の問題、精神障害者に対する社会的偏見や差別意識、社会復帰施策がなかなか進まない日本の特殊性を社会的背景から考えることとしたい。また、そうした知識をもとに、精神障害者に対するソーシャルワークについての実際を検討してみる。	○		◎	3
	カウンセリング特論	2	選択	毎回用意する資料を土台に、カウンセリング、人格構造、効果的なコミュニケーションに必要な理論を学ぶ。授業では、理論の理解と演習とを交互に行い、単なる知識でなくカウンセリングの基本姿勢、援助的な話の聴き方について体得していくことを目指す。	○		◎	3
	国際ソーシャルワーク特論	2	選択	社会保障制度は、年金や医療及び福祉などの「子制度」を通して、けがや病気、失業、高齢など、人生で起こりうる様々なリスクに対して、生活の安定と安心をもたらしてくれる最も重要な仕組みであり、今や私たちの生活になくてはならない存在である。本講義では、社会保障制度のなかの医療と介護に焦点を当て、国際比較の視点から医療と介護の歴史と構造、そして改革の方向性を研究する。	○		◎	1,2,3,8,10,16
	高齢・障がい者ソーシャルワーク特論	2	選択	講義や事例の検討を通し、高齢者、障がい者、家族、学校、地域など、社会の様々な構成要素に対し、ソーシャルワークの支援のあり方についてアプローチを適用し、多面的に理解し、考察を深めていく。また、社会の変化とともに変化しつつあるそれらの構成要素が、今後どうなっていくのかについて客観的に見つけ、ソーシャルワークはどうあるべきかについて考えていく。	○		◎	3
ファミリーソーシャルワーク特論	2	選択	「子どもにとっての最善の利益」や「子ども自身の意見を的確に把握する」ことは、ファミリーソーシャルワークにとって重要なテーマです。しかし、実際の子どもの前にすると、適切に情報を把握し判断することは非常に難しいことがわかります。ともすると周囲の大人は、「自分が重きを置く価値感」を子どもに投影して考えがちです。13回の授業を通して、子ども自身の気持ちを考慮しながら子どもや家族に対応していくためのアセスメントの技法について学習していく予定です。	○		◎	2,3,8	

	医療ソーシャルワーク特論	2	選択	授業の概要 医療ソーシャルワークがどのような役割を果たしているかを学ぶために、まずは歴史を概観する。その後、医療ソーシャルワークの基本であるバイステックの7原則について理解する。バイステックの原則の視点で医療ソーシャルワークの実践事例についてディスカッションを通して検討していく。	○	◎	1,3,5	
	福祉経営特論	2	選択	まず、営利企業のマーケティングの基礎を理解し、その後、ソーシャルマーケティング、福祉経営について考察する。前半は、マーケティングの基礎を学ぶ。また、サービスマーケティング、サービスマネジメントの基本的な考え方・実践方法についても学習する。そのうえで非営利組織のマーケティングについて理解し、次に、営利企業の行う社会志向のマーケティング、福祉経営への活用について学ぶ。	○	◎	1,3,5,8	
	保育園経営特論	2	選択	日本の保育所では、0歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として、保育を行っている。長い子どもは6年間保育所生活を送ることになる。乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい児童観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要である。日本の保育所経営の仕組み、制度を、経営の実際を学び、保育所経営とは何かを考える。	○	◎	3,8	
	施設経営特論	2	選択	イギリスにおけるワークハウスを中心とした救貧から防貧への歴史的意義を理解する・戦後日本における社会保障制度の変遷について理解する・介護保険制度を中心に現在の社会保障制度について理解する・特別養護老人ホームなど介護保険施設について理解する	○	◎	3,8	
	病院マネジメント特論	2	選択	医療マネジメントとリスクマネジメントの概念を理解する。経営戦略、経営組織、人材育成、危機管理、情報システム、組織文化について、医療機関における安全管理、質の管理安定的な運営と良質な医療を提供するための視点と、具体的問題解決の手法を学ぶ。	○	◎	3,8	
ター ン シ ッ プ	研修・インターンシップ	2	選択	講義や演習による事前学習において、地域の人口構成、世帯構成、産業構成などについて理解した上で、児童、高齢者・障害者の方々に対する包括的な支援の意義、地域住民の方々への働きかけを含めた地域における福祉活動について、実際の体験学習を通して学ぶことを目指す。施設の利用者や職員との関わりを通して、参加する学生の一人ひとりが、大学での講義内容等をより深める機会とし、豊かな人間形成を図り、専門職となるための実習にも活用できる基盤を養成していく。	○	○	◎	3,8,17
特 別 講 義	現代社会と女性福祉	2	選択	本講義では、ジェンダーの視点から女性福祉論を展開する。ジェンダーアンバランスが、歴史的にも、現在においても女性の生活問題・生活困難の背景となっており、ジェンダーの視点に立つことは問題の理解に大きく寄与するものである。 講義では、特に婦人保護事業を中心とする。婦人保護事業は、実態的に女性福祉を担ってきた。そこで、婦人保護事業を歴史的に把握すると共に、対象者の変化等を理解し、現代的課題を明らかにすることから、女性福祉を考える。	○		3,5	
	国際高齢者福祉論	2	選択	20世紀における高齢先進国の足跡と21世紀の現状を知ることにより、特に国際社会における高齢者福祉の最先端について学んでいく。	○		1,3,10	
	地域包括支援論	2	選択	講義を通して地域包括ケアシステムを理解するために必要な、ソーシャルワーク・高齢者福祉・地域福祉・ネットワーク構築の基礎知識を再確認し、地域包括ケアの概念学ぶ。また、実際の取り組み事例をゲストスピーカーやDVD視聴を通して、ケアシステムの現状と課題、住民とのネットワークや共同活動の重要性、資源開発等の手法について考察する。	○		1,3,5	
	現代社会とユニバーサルデザイン	2	選択	ユニバーサルデザインの原則的知識をテキストを用いながら学ぶ。同時に、フィールドでデザインの実践されている状況に気付いたり、改善する可能性を提案できるよう演習活動を組み込んで体験的に学んでいく。	○		3,10	
演 習	福祉社会演習	6	必修	授業は、グループ討議、教員による指導、個人作業などの形態によって行なう。各自の問題意識をもとに、研究テーマを設定し、研究方法を理解し、実施する。最終的に、修士論文としてまとめることを目的とする。	◎	◎	◎	1,2,3,5,10,11,16

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」

13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナーシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」